

ヒヤリ・ハットから学ぶ 「看護技術」の本

本書を初めて手にしたとき、装丁と本文中のイラストとマンガの親しみやすさとそこから与えられるイメージの豊かさに、学術書ベースの医学書院の本とは思えない実用書ぶりだとびっくりした。また、最初は「ヒヤリ・ハット」に焦点を当てたガイドブックだと思ったが、本書はメインタイトル通り、ヒヤリ・ハットに学ぶ「看護技術」の本なのである。

取り上げられているのは、「体位・姿勢の保持、移動」「生活環境の整備」「保清・整容」「食事・水分摂取」「注射・点滴・与薬・酸素吸入」「観察・報告」「個人情報保護」「感染予防」「ハラスメント」という9カテゴリ15項目であるが、それらは看護学生への調査結果にもとづいて選定されている。

そして各項目ごとにヒヤリ・ハットの実例がイラスト付きで紹介され、ストーリー性のあるマンガとして「よくある事例」がきちんと描かれている。加えて、自分の担当患者と自分自身にそのヒヤリ・ハットが起きるリスクがあるかどうかをチェックする項目がついている。そのうえで、関連する基礎知識や予防策がきちんとまとめられ、ヒヤリ・ハットに遭遇した場合に先輩ナースや指導者ならどう考えどう行動するかについての助言もある。さらには自己学習のための課題と回答例までついている。

1つひとつにエビデンスがあり知識を確かめさせるという懇切丁寧さであり、長年にわたり臨床と研究をリンクさせたガイドブックを生み出してきた川島みどり氏の監修にうなずくばかりである。

知識と臨床を統合し復習するために

本書でイラストとマンガを描いている横谷順子氏とは縁合って交流があるのだが、彼女は、たびたび臨床看護の現実の取材にもとづいたマンガを描いている。今回も、1つひとつの描画から、世界に誇る日本の漫画文化を支える漫画家の実力を感じとらずにはいられない。これなら、まだほとんどヒヤリ・ハットを経験したことのない学生ばかりでなく、就職を間近に控えた学生、日々びくびくしながら現場に臨む新人看護師にとって、看護技術を、多彩な病態をもち多様な治療・処置を受けている患者への具体的な臨床場面に引きつけて、統合し復習する最高のガイドブックになるだろう。

ただし、本書を低学年の看護学生が用いる場合には、患者の病態や治療と看護技術をまだうまく統合できないことをふまえて、それを補うための解説が別に必要であろう。そこが、従来の基礎教育における看護技術書と異なる優れた特徴であるとともに、弱点といえるかもしれない。

本書の構成は、日頃の臨床実習で学生自身が問題意識や関心をもった事象を取り上げて、その事象と関連する既存の知識と結びつけ、看護学の実践力を向上させていくという、帰納的な学習の実例ともいえる。ヒヤリ・ハットに限らず、このような構成をもつ実習のための自己学習ガイドブックもあればよいのと思う。

だからこそ、学生や新人の気づきを大事にして指導するための実力をつける必要のある臨床指導者に各1冊、自分なりに事故防止を心がけて看護技術を復習する責務がある新人看護師に各1冊は必要だと思う本である。



学生のための ヒヤリ・ハットに学ぶ 看護技術

川島みどり 監修
定価 2520 円
(本体 2400 円 + 税 5 %)
医学書院
TEL. 03-3817-5657

臨床指導者、新人看護師に 各 1 冊必要な本！

吉田澄恵 順天堂大学医療看護学部准教授

評
BOOK